

C-14 日本人学齡期中期の男女児の皮膚の色について—岡山地区における—  
東京家政大家政 ○木曾山かね 岡山県立短大 古元千鶴子  
雲 田直子

目的 先に昭和43年に、東京地区における学齡期中期男女児の色調を測定し、第20回総会に報告した。今回岡山地区の色調をみる機会を得たので、同じく学齡期中期の8才より9才までの男女児の色調を測定し、東京地区と比較対照できる部分は比較し考察を行った。本研究は、衣服の色との調和を論ずるための資料をつくることを目的とした。

方法 測定の方法は視感測定で行った。測定月日は、昭和47年5月下旬、測定時の室温は、20°C内外、湿度は65%内外で実施し、測定箇所は額、頬、胸、腕の内外で、皮膚面の照度は450ルクス内外であった。  
被験者の年齢と人員の割合は、8才、9才の男児90名、女児100名、計190名を測定した。

結果 学齡期中期には、マンセル記号5.0 Y R 周辺の肌色が出現率約53%で、7.5 Y R系統が40%あった。頬の色の出現率は高く、赤味のある色2.5 Y Rは17%、5.0 Y Rが約35%内外出現し、7.5 Y Rも15%内外であって、男児より女児の出現率が高かった。